



2017 ANNUAL REPORT



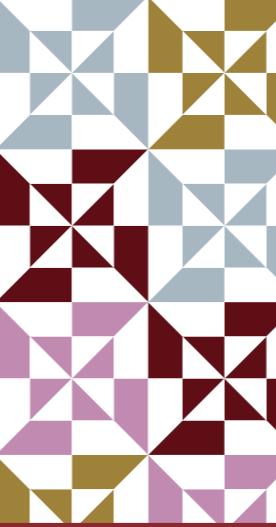
公益社団法人 東京青年会議所



和の心を
世界へ
美德溢れる国際都市
「東京」の実現



TOKYO



2017
ANNUAL
REPORT

INDEX

- | | |
|----|------------------|
| 4 | 2017年度の活動の軌跡 |
| 6 | 理事長挨拶 |
| 7 | 副理事長・専務理事挨拶 |
| 8 | 2017年度東京JCアワード報告 |
| 9 | 2017年度例会報告 |
| 12 | 委員会活動報告 |
| 18 | 日本JC諸大会報告 |
| 19 | JCI・海外渡航報告 |



『ラグジュアリー』と『スポーティ』先鋭化する2つの価値、3つのトリセキオブシンボルと共に、新型『クアトロポルテ』



GRANI USSO.



GRANSORT

【モデル】	【トリム】		
Quattroporte	V6 2.979cc 350ps	¥12,060,000	GranLusso
Quattroporte S	V6 2.979cc 410ps	¥14,060,000	GranLusso/ GranSport
Quattroporte S Q4	V6 2.979cc 410ps	¥15,090,000	GranLusso/ GranSport
Quattroporte GTS	V8 3.799cc 530ps	—	Gran Lusso/ GranSport

マセラティ 紀
トライデント イタリア
千代田区麹町5-3
営業時間:10:00~

マセラティ 目
トライアント イタリ
ー
-6261-2801 目黒区碑文谷5-2-2
定休日:水曜日 営業時間:10:00~

マセラティ 杉並
トライアント イタリア株式会社

MASERATI
Quattroporte

オーダースーツなら全国43店舗ある工場直販オーダースーツSADA or ネットショップへ!

2017年度の活動の軌跡



1/16
例会特別委員会
1月例会 和の心を世界へ
～美德あふれる国際都市「東京」の実現～

1/19～22
京都会議

2/22
総合政策委員会
2月例会 TokyoJC×ダイバーシティの流儀
～多様な個性を組織の強みに～

2/17～19
金沢会議

3/16
国際都市推進委員会
3月例会 一人一道
～文化から学ぶ和の心～

4/16
台東区委員会
わんぱく相撲台東区大会

4/22
大田区委員会
わんぱく相撲大田区大会

4/23
国際政策委員会
4月例会 Make Borderless Friendship
～ShallWeTalk!?CrossCulturePresentation!!～

4/30
文京区委員会
わんぱく相撲文京区大会

5/13
新宿区委員会
わんぱく相撲新宿区大会

5/14
江東区委員会
わんぱく相撲江東区大会

渋谷区委員会
わんぱく相撲渋谷区大会

豊島区委員会
わんぱく相撲豊島区大会

杉並区委員会
わんぱく相撲杉並区大会

中野区委員会
わんぱく相撲中野区大会

品川区委員会
わんぱく相撲品川区大会

目黒区委員会
わんぱく相撲目黒区大会

港区委員会
わんぱく相撲港区大会

江戸川区委員会
わんぱく相撲江戸川区大会

5/17
政治行政政策特別委員会
5月例会 ニュース読解力養成講座
～メディアのプロが教えるニュースのミカタ～

5/20
荒川区委員会
わんぱく相撲荒川区大会

北区委員会
わんぱく相撲北区大会

5/21
葛飾区委員会
わんぱく相撲葛飾区大会

中央区委員会
わんぱく相撲中央区大会

練馬区委員会
わんぱく相撲練馬区大会

5/27
板橋区委員会
わんぱく相撲板橋区大会

世田谷区委員会
わんぱく相撲世田谷区大会

千代田区委員会
千代田区少年少女相撲大会

足立区委員会
わんぱく相撲足立区大会

東京ブロック大会(三鷹)

6/8～11
ASPAC(ウランバートル)

6/10
墨田区委員会
わんぱく相撲墨田区大会

わんぱく相撲特別委員会
わんぱく相撲モンゴル大会

6/21
政治行政政策特別委員会
6月例会 Tokyoプロデュース会議
～大学生が創る!都議選公開討論会～

7/8
千代田区委員会
7月例会 ヒーローアカデミー
～2045年、あなたの子供は未来を生き抜けるのか～

7/15
荒川区委員会
あそぼう!まなぼう!あらかわぼうさい!

7/16
港区委員会
ドリームキャッチャープロジェクト2017

7/22～23
サマーコンファレンス

7/30
わんぱく相撲特別委員会
8月例会 第33回わんぱく相撲全国大会
『夢に向かって熟くなれ』
～つながりから学ぶ和の心～

8/5
関東地区大会(つくば)
板橋区委員会
Pay it forward
～板橋から広げる恩送りのこころ～

8/18～21
国際政策委員会
スマーキーマウンテンベースボールプロジェクト

8/21
墨田区委員会
すみだ防災フォーラム

8/26
渋谷区委員会
Shibuya Positive Action2017
～パパの笑顔が家庭を変える。
ママの笑顔が世界を変える～

9/2
江戸川区委員会
江戸川区共育のすゝめ

9/3
東京JCブランド確立委員会
9月例会 #東京イイもの
ミタイ・キタイ・伝えたい/How do you find Tokyo?

9/9
世田谷区委員会
第5回夢をかなえる力

9/9
台東区委員会
下町から世界へ
～みんなで紡ぐ理解の和～

豊島区委員会
国際交流2017
～WE LOVE TOSHIMA～

新宿区委員会
新宿イメージアッププロジェクト2017

9/10
北区委員会
北区つながり創造プロジェクト

文京区委員会
こころのパリアフリー推進プロジェクト2017
品川区委員会
「夢へのキップ」
第4回品川英語スピーチコンテスト

9/13
中央区委員会
にぎわい国際交流プロジェクト

9/19～24
国際政策委員会
さくらサイエンス

9/24
練馬区委員会
ねりまチャイルドミーティング
杉並区委員会
Safe City Suginami Project

9/28
江東区委員会
～Diver-City KOTO～

9/28～10/1
全国大会(埼玉中央)

10/7
足立区委員会
あだち超学園祭

10/8
大田区委員会
国際都市OTAの"輪"

中野区委員会
なかのまちづくりキャラバン
葛飾区委員会
葛飾少年立志プロジェクト

10/13～15
衆議院議員総選挙公開討論会

10/15
目黒区委員会
Meguro English speech contest

10/18
国際都市推進委員会
10月例会 和の心を世界へ
～東京を世界一の都市に～

10/23
さよならブロック

11/6～10
JCI世界会議(アムステルダム)

11/22
総合政策委員会
11月例会 TOKYO JC×経済成長の流儀
～ダイバーシティマネジメント・レポート2017～

12/3
東京JCメンバーシップ特別会議
12月例会 クリスマス・卒業式例会
「和の心を世界へ」
～つながる絆が拓げるWA！～



理事長挨拶

東京青年会議所(東京JC)が、2017年度も多くの運動を展開できましたことは、東京都をはじめとする行政や関係諸団体並びに関係各位のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

IoT・ICTの進化による急速なグローバル化、AI・ロボットの台頭によるライフスタイルや価値観の多様化など、これからも目まぐるしい変化の中で私たちは生きていくことになるでしょう。日本人として、未来を担う青年のリーダーとしてのるべき姿について考え、2017年度東京JCの運動を展開しました。

2017年度は「和の心を世界へ～美徳溢れる国際都市『東京』の実現～」をスローガンに掲げて、

1. 和の心を世界へ発信する真の国際人の育成
2. 多様な個性を組織の強みに変えるダイバーシティマネジメントの推進
3. 東京JCブランドの確立による新たな価値の創造

といった3つのテーマで、個人の意識改革と社会システムの変革となる運動を行いました。

まず、1つ目の「和の心を世界へ発信する真の国際人の育成」では、日本人としてのるべき姿についての方向性を示す運動を行いました。日本人は古来より相手を慮り調和する和の心を大切に受け継いでいます。海外における私たちの最大の個性の1つは日本人であることです。グローバル化が急速に進む中、私たちは日本人としてのアイデンティティと国際社会の一員としてのアイデンティティを持ち合わせた「真の国際人」となり、世界に貢献できる人財となる必要があります。和の心から日本人の精神性について掘り下げていくことで、次代に受け継いでいくべき日本人のアイデンティティについての理解を深める一方、世界最大級の規模をもつJCIのネットワークを活かした民間外交を行い、東京JCメンバーそして地域市民の皆様に国際社会の一員としてのアイデンティティを持つための様々な運動をつくることができたと考えています。

そして、2つ目の「多様な個性を組織の強みに変えるダイバーシティマネジメントの推進」では、変化を活かす青年のリーダーとしてのるべき姿についての運動を行いました。

2045年、現在ある職業の49%はなくなると言われています。それだけ、AI・ロボットが私たちの生活に与える影響が大きくなっていくということです。価値観が多様化し、さらに激しい変化が起き続ける未来においても、私たちはイノベーションを起こすと共に新たな価値を創造できる強い組織をつくり、リーダーとしての手腕を發揮していくかもしれません。2017年度の東京JCの運動では、ダイバーシティマネジメントに関する調査・研究を行う一方、すべての東京JCの事業においてダイバーシティの推進に取り組んでまいりました。ダイバーシティマネジメントは目的ではなく手法です。しかしながら、ダイバーシティマネジメントを活用し成功するための教科書



はありません。私たちが絶えず多様な個性と関わり、議論を交わすことを積み重ねて、組織を前へ進めていくことが青年のリーダー即ちダイバーシティマネージャーとしての第一歩なのではないかと考えています。

3つ目の「東京JCブランドの確立による新たな価値の創造」への取り組みは、私たちが何者であるのか、何者であるべきなのかを考える素晴らしい機会となりました。東京JCは社会に大きなインパクトを与える運動を行う団体であり、私たちメンバーは能動的なリーダーとして様々なフィールドで活躍続けることで東京JCブランドを確立することができます。翻って、本年はメンバーの拡大・スポンサーの拡大・サポートの拡大だけでなく、運動発信にも力を入れてまいりました。質の高い運動をつくることはもちろん、SNS・WEBサイト・アプリなどを活用し、今まで東京JCの存在を知らなかった方々へ積極的にアプローチすると共に、独創性や手法にこだわった例会の設えにも挑戦し、幅広い層の方々に東京JCの存在を知って頂きました。これを契機に、2018年度の運動がさらなる広がりを見せてくれることを期待しております。

本年は国際会議において今後の東京JCの発展につながる機会にも恵まれました。6月にモンゴルのウランバートルにて開催されたASPACにおいてモンゴルのJCIセントラルと姉妹締結を結びました。また、JCIマニラと協働で2012年より行ってきた「スマーキーマウンテンベースボールプロジェクト2017」が、オランダのアムステルダムにて開催されたJCI世界会議アワードセレモニーの「最優秀組織間プロジェクト」部門において表彰されました。日本JCの中では唯一の受賞であり、東京JCにとっても3年ぶりの受賞という快挙となりました。いずれも、今後、新たな価値を生み出す国際の機会の創出につながると確信しています。

結びとなります、2017年度理事長をさせて頂けたことに心より感謝申し上げます。2017年度の運動で掲げた「美徳溢れる国際都市『東京』の実現」から、2018年度は「好循環で創る世界都市『東京』」へと昇華していきます。これまでの運動をお支えくださいましたすべての皆様に感謝申し上げると共に、2018年度以降もこれまでと同様に東京JCの運動にご理解、ご支援賜りますことをお願い申し上げ、挨拶とさせて頂きます。1年間、本当にありがとうございました。

公益社団法人東京青年会議所
第68代理事長 **波多野 麻美**



副理事長・専務理事挨拶



2017年度は、運動の柱となるダイバーシティ推進室及び東京JCプランディング室を通じて様々な施策に取り組みました。総合政策委員会では、2月例会及び11月例会並びに3回の勉強会を開催し、個人・組織・地域の観点からダイバーシティ推進を実施しました。また、東京青年会議所全ての事業においてダイバーシティの観点を取り入れ、調査・分析し、政策提言としました。対外連携推進会議では、様々な団体との関係構築をはじめ、一般市民との窓口となる東京アンバサダーズを設置しました。東京JCブランド確立委員会では、一年を通じて内外に開わらずブランド力の向上を目指し、携帯アプリJC-adaptaの開発及び運用、さらに9月例会と4回の勉強会を開催致しました。9月例会では9千名近くの動員を達成し、広く市民の皆様へTokyoの魅力を発信しました。東京JCムーブメント発信会議では、4回のTokyo JC Newsの発行と合わせて波多野理事長の外部メディアへの露出を促進させることにより効率的な運動発信を行いました。関係者の皆様、また全てのメンバーの皆様に大変お世話になりました。1年間ご協力ありがとうございました。

副理事長・理事長代行 **村瀬 義則**



23地区委員会、防災・減災推進協議会、会員拡大特別会議を担当させて頂きました。地区委員会事業では「より市民目線の意義ある運動へ」を基本方針に設定して、2016年度に実施した第5回都民意識調査で明らかになった地域の課題を解決するべく、多様な価値観を運動に取り入れることにより地域の未来を先導していくことを目指しました。主体的に地域の発展に取り組む東京JCメンバーをさらに増やすことができ、メンバーの多様な個性から生まれたアイデアをもとに、多くの市民・関係団体の方々のご協力を得てインパクトある運動を開催することができました。防災・減災推進では23地区委員会において、行政や社会福祉協議会など諸団体の皆様との協力関係をさらに深めて、防災協定を中心とする災害対策ネットワークを推進することができました。お世話になった皆様への感謝とともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

副理事長・防災・減災推進協議会議長 **上笠貫 格士**



2017年度、「教育」をテーマとしたグループを担当させていただきました。政治行政政策特別委員会では、5月・6月例会から若者世代を中心とした政治リテラシーの向上を目的とした例会を開催致しました。また、東京都議会議員選挙においては各地区において公開討論会・座談会・政見放送を開催し、衆議院議員総選挙においてはネット型公開討論会を公示日後に開催致しました。わんぱく相撲特別委員会では、各地区大会をはじめ8月例会にて「夢に向かって熱くなれ～つながりから学ぶ和の心～」をスローガンに掲げ、わんぱく相撲全国大会を開催致しました。東京JCメンバーシップ特別会議では年間を通して委員会の枠を超えた自己成長・ネットワーク構築を掲げ、勉強会や活動を行い、また2017年度運動の集大成でもある12月例会を開催致しました。2017年度御支えいただけました皆様に心からの感謝と御礼を申し上げます。1年間誠にありがとうございました。

副理事長 **堀口 泰佑**



国際政策室、例会特別委員会を担当させて頂きました。国際政策室では、「和の心を世界へ発信する真の国際人へ」をテーマに、日本人の精神性と国際的な感覚を学び、その両輪から東京を世界一の都市にする為に、どの様な行動を進めるべきかという視点で3回の例会を開催致しました。さらに、海外との民間外交においてはマニラJCとのSMBP in Tokyo、中国とのさくらサイエンスを始め、ASPACモンゴル大会、世界会議アムステルダム大会と多くの国際ミッションに参加し外国人と交流する事で、世界との友情を築く事が出来ました。また、2017年度の東京JCの例会は、一年を通してストーリ性をもってダイバーシティマネジメントを推進する運動を開催して参りました。多くのメンバーが参画し、一体感をもって臨む事により例年に無い様々な例会を設え、我々の運動を多くの一般市民へ発信する事で、新たなメンバーと賛同を得る事が出来ました。2017年度、関わりを持っていただいた全ての方々へ感謝申し上げます。1年間誠にありがとうございました。

副理事長 **伊澤 英太**



2017年度は、東京青年会議所への賛同者を増やす取り組み、また、各委員会・会議が連携する様々な取り組みを行いました。総務室では、涉外委員会が国内、国際諸会議ともに正副理事長のアシスタントを担い、各委員会・会議との連携により、諸会議での行動計画を立て、効率的に実行しました。また、総務委員会では、3、4、8月と各担当地区委員会との連携により、ご当地理事会を行いました。財務審査特別委員会では早い段階での事業の審査を行うことで、円滑に実施することができました。新設した財務運営会議では、賛同企業回りを実施し、新たな賛同者との連携に寄与しました。専務ライン一同、年間を通して一體となり組織運営することで、各メンバーに学びの機会を提供できました。また、最後になりましたが、東京青年会議所に係る全ての皆様のご協力に心から感謝いたします。

専務理事 **福田 貴之**

2017年度東京JCアワード

最優秀東京JC賞

新宿区委員会



優秀新人賞

永野 達也 (千代田区委員会)	高木 隆太 (品川区委員会)
山家 直子 (中央区委員会)	原 征 (大田区委員会)
早津 研 (港区委員会)	増田 拓真 (世田谷区委員会)
上田 貴之 (新宿区委員会)	瀧井 雅代 (渋谷区委員会)
駒津 啓佑 (台東区委員会)	松本 琢也 (中野区委員会)
須藤 肇 (墨田区委員会)	古本 雅裕 (北区委員会)
山中 大輔 (江東区委員会)	鈴木 康彦 (板橋区委員会)

優秀東京JC賞

新宿区委員会／千代田区委員会／板橋区委員会／東京JCブランド確立委員会／会員拡大特別会議

優秀事業賞 (地区事業)	文京区委員会
優秀事業賞 (例会)	千代田区委員会
理事長特別賞 (委員会)	渋谷区委員会
理事長特別賞 (個人)	高井 正樹 (新宿区委員会)
優秀会員拡大賞.....	新宿区委員会
功労賞.....	石野 圭城 上笠 寛 格士 福田 貴之

優秀活動賞

香山 翔太 (千代田区委員会)	吉田 英樹 (大田区委員会)	保田 佳孝 (足立区委員会)	福岡 吉則 (对外連携推進会議)
辻本 祐介 (中央区委員会)	末原 伸隆 (世田谷区委員会)	平井 大千 (葛飾区委員会)	北 永久 (東京JCブランド確立委員会)
北村 麻里衣 (港区委員会)	弥田 有三 (渋谷区委員会)	越野 友博 (江戸川区委員会)	藤井 博行 (東京JCムーヴメント発信会議)
高井 正樹 (新宿区委員会)	西尾 江平 (杉並区委員会)	香取 良明 (東京JCメンバーシップ特別会議)	佐野 顕弘 (国際政策委員会)
大和 親英 (文京区委員会)	上野 広樹 (豊島区委員会)	阿部 造一 (政治行政政策特別委員会)	下地 麻貴 (国際都市推進委員会)
秋葉 浩二 (台東区委員会)	村田 遼都 (北区委員会)	珍田 汐花 (わんぱく相撲特別委員会)	遠藤 篤 (総務委員会)
太田 英伸 (墨田区委員会)	衛藤 清隆 (荒川区委員会)	島崎 亮 (例会特別委員会)	野間 一彰 (涉外委員会)
伊藤 海 (江東区委員会)	山内 亘 (板橋区委員会)	三上 瑛康 (財務審査特別委員会)	瀬戸 龍太郎 (財務運営会議)
正木 克典 (品川区委員会)	北本 新太郎 (練馬区委員会)	白根 斎一 (会員拡大特別会議)	

優秀出向者賞

<日本青年会議所>	
和田 壮司 (内部会計監査人グループ)	灘部 隆志 (公益資本主義推進会議)
奥澤 泰子 (LOM連携構築委員会)	河内 豪 (メディアリテラシー確立委員会)
永瀬 泰子 (経世済民会議)	丸山 智久 (政治参画教育委員会)
岩崎 孝太郎 (教育再生グループ)	照井 淳矢 (強い産業構造創出委員会)
高椋 輝彦 (国際アカデミー委員会)	大森 雄一朗 (財務運営会議)
朝倉 舞 (道徳教育推進委員会)	中村 公太朗 (財務運営会議)
石川 哲也 (道徳教育推進委員会)	

優秀新人アテンダント賞

小川 芳裕／北村 麻里衣／伊藤 海／秋葉 浩二／内田 洋幸／山内 亘／松本 琢也／佐治 良之輔／高木 隆太／鈴木 康彦

皆出席賞

須賀 寛文／井上 昌人／高橋 秀行／小川 芳裕

8大会議出席賞

須賀 寛文／久保田 悠介／兒玉 康智／白石 力也／橋田 良彦

国内諸会議会出席賞

須賀 寛文／新井 一功／遠藤 篤／田中 淑之／久保田 悠介／蛭名 明／内田 任人／白石 力也／伴 久之／橋田 良彦／吉田 英樹／高橋 秀行／小川 芳裕

2017年度例会報告

1月例会

和の心を世界へ
～美德溢れる国際都市「東京」の実現～



2017年1月16日、東京ドームホテル「天空」において、今年最初の例会である1月例会「和の心を世界へ～美德溢れる国際都市「東京」の実現～新年賀詞交歓会」を開催致しました。東京商工会議所副会頭田中常雅様をはじめとする来賓の方々や、日本各地の青年会議所のメンバー達だけでなく、世界から多くの青年会議所のメンバー、東京青年会議所の卒業生達にもお越しいただき、総勢663名の参加者が一同に会することとなりました。理事長波多野麻美君により、「和の心を世界へ～美德溢れる国際都市「東京」の実現～」という今年度のテーマを中心に力強くメッセージを発信致しました。また小池百合子東京都知事をお招きし、東京都政の掲げる政策と東京青年会議所が本年掲げる運動について波多野理事長と対談もを行い、多くの取材陣が会場内に立ち並び中、対内・対外に東京青年会議所の1年間の運動を発信しました。

2月例会

東京JC×ダイバーシティの流儀
～多様な個性を組織の強みに～



平成29年2月22日、ZeppDivercityにて2017年度2月例会「東京JC×ダイバーシティの流儀～多様な個性を組織の強みに～」を開催致しました。2月例会ではダイバーシティマネジメントをテーマとし、我が国が世界に先駆け、多様な個性を組織に取り入れて新たな価値観を創造し、推進、実行に移していくことを目指し、東京青年会議所メンバー30名がカンファレンスに参加し、様々な議論が行われました。アンケートの結果からカンファレンスの内容は参考になったという意見が多かったです。カンファレンスの総括・講評を齋藤ウイリアム浩幸氏に行っていただきました。日本人は、相手への信頼が足りない・失敗を恐れる・人のせいにするということから、多様性が生まれず個人主義になっている。ダイバーシティの意味である「横を見る」ことを今こそ手掛ける必要性があることを総括・講評頂きました。ダイバーシティマネジメントの推進について、佐々木かをり氏のご講演では、ダイバーシティのポイントはチームの総合得点を高めるという目的であると、基調講演を通して参加者に示して頂きました。

3月例会

一人一道
～文化から学ぶ和の心～



平成29年3月16日、有楽町朝日ホールにて「2017年度3月例会一人一道～文化から学ぶ和の心～」を開催致しました。日本文化から和の心を学ぶことの意味や必要性を理解し、個人の意識の中に民間外交の礎を築くべく日々の活動から「和の心」を世界に伝える活動をしておられる千宗室氏に基調講演を頂き、例会と併設の茶席ブースでは立札の茶席で美味しいお抹茶と和菓子が振る舞われ、和の心を体感できる例会となりました。さらに、日本在住が40年以上、駐日大使全體の代表となる「駐日外交団長」として日本人以上に日本への造詣が深いマヌリオ・カデロ大使に講演いただき、最後のクロストークではタレントのパトリック・ハーラン氏にもご登壇頂きました。日本の文化を誇りに持て。議論するべき時はする。そのためには自分たちが日本のことによく知って、議論するための土台を築いている必要があります。和の心を世界中の人が持つていれば平和な世の中になる。本例会を通して、日本文化背景にある歴史や精神性を体験し、今後外国人と接する機会が増えていく中で、和の心をもって交流する重要性を意識付けすることができました。

4月例会

Make Borderless Friendship
～Shall We Talk? Cross Culture Presentation!!～



平成29年4月23日芝浦小学校にて例会を開催致しました。通常の講演型の例会と異なり、外国人約100名を呼び、JCメンバーやその家族が実際に例会を通じて国際交流する設えとなりました。接点のない外国人とどのように親交を深めていくかが運営上、難しい点でありました。アイスブレイクとして、各チーム10名に分かれ、それぞれのチームでゲームを行いました。その後は、平和をイメージする色を表現、各国のアイデンティティを1単語で表現するセッションを各チームで発表し、チームの代表者には全体に対しても発表してもらいました。各国のアイデンティティを見ると、日本人の回答は平和や調和などの回答が目立ち、他国の方の回答はダイバーシティなどの回答がありました。例会の目的は、外国人と相互理解を深め、能動的に民間外交を行うようになることです。海外での諸会議、SMBP、さくらサイエンスなど、その後国際交流の機会に積極的に参加している姿を見ると、国際政策の1年の活動のスタート地点となる4月例会はうまく機能しました。

委員会活動報告



2017年度、例会特別委員会は、1年間の運動の方向性を対内・対外に発信すべく開催した1月例会を主管させて頂いたほか、審査機関として各月の例会の計画・報告を審査するだけでなく、例会当日の成功に向け、準備段階から当日の開催に際し、運営サイドから支えるという重要な役割を果たさせて頂き、メンバーのためではなく、一体感を持って、東京JCの運動を社会へ発信することを意識して例会を開催させて頂きました。また個々の例会は、主管するそれぞれの委員会の色をしっかりと出すことが重要です。それぞれの委員会の持ち味を活かした安定した運営を実現するために、一生懸命活動させて頂きました。そして2017年度、所属メンバーは、主管する委員会メンバーとの信頼関係を構築し例会を共に作り上げていくことを通じて、日々のJC活動、運動を下から支える線の下の力持ちとしての経験を重ね、また、今後も各地区事業や例会を行っていくにあたって重要な事業構築のスキルや運営のスキルを得ることが出来ました。



メンバーの皆様の個々の可能性を最大限に活かし活動して頂くために、東京JCメンバーシップ特別会議では、メンバーの皆様に会務政策系委員会の魅力溢れる場の紹介をさせて頂くと共に、活動して行く上で必要な情報をお伝えすべく、JCIセナター資格取得者である佐藤修一郎先輩を講師にお招きし、計2回の勉強会にて事業の意義・目的・可能性や、どのように事業を構築していくのか、実戦形式にて学ぶことの出来る勉強会を開催致しました。私達が行うべく運動とはどのような事業なのか、改めて考える機会となったのではないかと考察致します。また、入会して間もないメンバーが運営や設営に携わり、ガイドスメンバーセミナーや、主管として2017年度最後の例会となる12月例会の開催、そして、全国の青年会議所を知る機会ともなる全国大会でのブース出展や、他団体への事業移管が成功しているフレンドシップキャンプへの参加等、メンバーシップ特別会議での様々な経験を通じて、今後益々青年会議所運動を邁進して頂けますことを確信し、期待を込めてご報告をさせて頂きます。



2017年度は、若者世代の主権者意識の確立と政治リテラシーの向上によって、若者世代が政治への関心を高めて投票行動を起こし、未来志向の政治を実現させることを目指し、大学生とTeam POSITICSを結成し、大学生達と一緒に事業や例会を構築しました。5月例会「ニュース読解力養成講座～メディアのプロが教えてニュースのミカタ～」では、ニュースに関心をもって解釈することの重要性を理解し、その方法論を学びました。その後、6月には、各地区委員会において、公開討論会等の東京都議会議員選挙関連事業を一斉に実施しました。そして、6月例会「TOKYOプロデュース会議～大学生が創る！都議選公開討論会～」では、若者自らによる都議会各会派代表の公開討論会を実施しました。さらに、衆議院議員総選挙では公示日後のネット型公開討論会を実施し、東京23区内の17選挙区のうち、前回を大きく上回る15選挙区（名称使用を含む）で公開討論会を開催することが出来ました。特に地区委員会の皆さまの大変なご協力の下に、1年間の運動を遂行することができました。ご協力頂いた多くのメンバーの皆様に御礼申し上げます。



2017年度は「東京のため、地区のための最強支援軍団」として、地区委員会に寄り添うパートナーとして活動させて頂きました。2017年度の目的として、1915年アメリカで設立され100年以上にわたり社会貢献運動を発展させてきたJCへの各メンバーの理解や意欲を向上すること、拡大を継続していく仕組みを築くことの2点を設定しました。前年12月に、2017年度に向けた事前準備のセミナーを東京ブロック協議会会員拡大交流委員会委員長の新井佳代子君に行って頂き、2017年2月と4月には東京JC第55代理事長古谷真一郎先輩に、JCの魅力・意義を理解する基本編、実際に取り組んでいくべきことの戦略編の2回に分けて、ご講演頂きました。その後は地区委員会を個別にフォローしながら、各分野で活躍されている方の講演会、魅力あふれる東京JCメンバーとの交流会など、青年経済人としての価値を高め運動を拡大する仕組みづくりの基礎を築きました。今後は、さらに仲間を増やすし運動を発展させていく拡大サイクルを東京JC全体に広げ、会員数1,000人以上のさらに魅力ある団体を目指していきます。



『夢に向かって熱くなれ』～つながりから学ぶ和の心～という大会スローガンのもと、全国各地域の大会を勝ち抜いてきた132チーム396名の選手を迎え、両国国技館にて第33回わんぱく相撲全国大会を開催致しました。わんぱく相撲の主役は全国各地域の予選に参加頂いた3万7千人の全ての子供たちです。昨年に引き続き、わんぱく相撲海外大会となるモンゴル大会を6月に開催し、文化の異なる地で日本の伝統精神である思いやりの心を伝え、大会を通じて日本の子供と海外の子供が正々堂々取り組むことで友情の架け橋となることが出来たと思います。大会前日においては友綱親方より「夢」を題材とした体験談を講演頂き、参加した子供たちに夢に向かって努力することの大切さを学び感動頂き、大会当日においては三保ヶ関親方協力のもと、相撲体験教室を開催頂き、相撲の所作や実技を学ぶことが出来ました。二日間を通して、相撲の殿堂である両国国技館で同じ時間を過ごしたわんぱく力士達が体験したすべての経験は財産となり、今後の彼らの夢に向けて、貴重な一步となってくれるはずです。



2017年度の財務審査特別委員会では、波多野理事長が掲げる「和の心を世界へ～美德溢れる国際都市「東京」の実現～」に向けた力強い運動展開の為に、地区事業・例会・全体会議を主催・主管する各会議・委員会と連絡を密に取り合うと共に、各会議・委員会がさらに効果的な事業を実施することが出来よう、70本を超える事業の計画・報告審査・予備審査を通じ、主に財務・規律面から主管委員会のサポートを行いました。また、東京青年会議所本会の経理財務の観点からも、公益社団法人である東京青年会議所が、適切なガバナンス、コンプライアンスを重視し、予算執行にあたって説明責任を果たせるための一助となるべく、審査や理事会等における各会議・委員会に対する助言・指導・会計セミナー及び会計幹事に対する勉強会の実施、監査における指揮事項の各会議・委員会に対する共有化に加え、事業計画書・報告書チェックリストの使用を開始し、公益法人化7年目を迎える2018年度につながる審査体制の構築を行いました。

メンバーや皆様の個々の可能性を最大限に活かし活動して頂くために、東京JCメンバーシップ特別会議では、メンバーや皆様に会務政策系委員会の魅力溢れる場の紹介をさせて頂くと共に、活動して行く上で必要な情報をお伝えすべく、JCIセナター資格取得者である佐藤修一郎先輩を講師にお招きし、計2回の勉強会にて事業の意義・目的・可能性や、どのように事業を構築していくのか、実戦形式にて学ぶことの出来る勉強会を開催致しました。私達が行うべく運動とはどのような事業なのか、改めて考える機会となったのではないかと考察致します。また、入会して間もないメンバーが運営や設営に携わり、ガイドスメンバーセミナーや、主管として2017年度最後の例会となる12月例会の開催、そして、全国の青年会議所を知る機会ともなる全国大会でのブース出展や、他団体への事業移管が成功しているフレンドシップキャンプへの参加等、メンバーシップ特別会議での様々な経験を通じて、今後益々青年会議所運動を邁進して頂けますことを確信し、期待を込めてご報告をさせて頂きます。



2017年度は「人は人によって磨かれる」とのテーマのもと、多くの人の交流、会員拡大に力を入れて活動して参りました。具体的には、まず、地域の他団体との連携・交流として、シティハーフマラソン・芸術体験ひろば・スポーツに協力したほか、第41回わんぱく相撲新宿区大会を共催致しました。次に、諸会議にも積極的に参加し、京都会議・サマコン・全国大会に20名を超えるメンバーで参加したほか、ASPAC・世界会議にも10名以上のメンバーで参加し、他LOMや世界のJCメンバーとの友情を深めました。さらに、昨年から続く客引き問題をテーマにした事業「第三回新宿イメージアッププロジェクト」として「街バル」を開催することで地域の商店街や行政とも交流し、商店街から感謝のお言葉を多く頂くなどして、連携を強固にしました。これらの活動を行う中、オブザーバーとしてJCやJC活動の魅力を発信しつつ会員拡大に力を入れた結果、30名以上の新メンバー入会を実現でき、新メンバーの新たな視点を取り入れることで、新宿区委員会やメンバーの更なる成長に繋げることが出来ました。



2017年度は新規事業「すみだ防災フォーラム」、わんぱく相撲墨田区大会の2つの事業を中心とし活動しました。すみだ防災フォーラムは企業の自助防災力を高めて、地域コミュニティと共助することで地域にあった防災対策の礎を築くことを目的に開催致しました。1、行政の観点から区の現状と課題、2、専門家の知見により企業防災の基礎と地域関連の重要性、3、東日本大震災の被災事業による復興までの体験談の3本の柱でフォーラムを開催し、地域内外より160名近くの方がご参加頂きました。わんぱく相撲では今年で41回目の大会を迎え、700名近くの選手が参加頂きました。大会スローガンより参加選手の夢、目標の宣言や、「和の心」をテーマに昔遊びでの多世代交流イベントを行い、相撲だけでなく様々な企画で楽しめる大会を開催して地域の大きな行事として定着しております。会員拡大にも積極的に取り組み2017年度では5名の新たな仲間が加わりました。まだまだ少人数ではありますが、事業や委員会を通してそれぞれが助け合い、成長してきました。2018年も地域の為、より質の高い委員会運営を行って参ります。



2017年度は【和の協約】をスローガンに1年間活動しました。2020年オリンピック開催が決まり中央区では銀座・日本橋を中心に訪日外国人客が増加傾向にあります。地域商店街へ訪日外国人客を受け入れダイバーシティのある地域商業振興を実現すべくインバウンド事業「ウェルカム中央」の運動を展開し地域の魅力を世界へ発信して参りました。また区内の小学生1,000名弱が集まるわんぱく相撲中央区大会を開催し相撲を通じて感謝と礼節を学ぶ青少年育成事業を行いました。公職選挙法の改正に伴い中央区では新たに約1,400人が有権者となりました。選挙年齢になる前の早い段階から将来の有権者としての当事者意識を持ち、自らの投票行動を通じて未来を選択する政治参画意識の向上を図ることを目的に日本橋中学校で「模擬投票」の授業を行いました。今後も地域における世代・国籍・所属団体・性別等の価値観の違いを個々の「魅力」を組織の強み、地域の魅力に変革し地域のにおけるダイバーシティを実現して地域や社会をより良くできる運動展開を地域の皆さんと共に進めて参る所存です。



渋谷区委員会では、Shibuya Positive Action 2017を行いました。Shibuya Positive Actionは、2014年に渋谷区委員会で策定した少子化問題の改善を目的とした5年計画の中で4年目にあたる事業であり、2017年度は「父親の育児に対する行動を変え、夫婦共に育児のしやすい社会環境の整備」をテーマに父親がより積極的に育児参加されることと、夫婦がより柔軟に外部の協力やサービスを取り入れることを提案しました。具体的には、「パパ力」を測定するアプリ「PURPLEマトリクス診断」の作成しリリースした他、親子で楽しみながらコミュニケーションを図ることのできるワークショップを多数実施しました。また、シェアリングエコノミーと育児をテーマとしたトークショーや長谷部渋谷区長と関係企業・団体による座談会などを開催し、「夫婦共に育児のしやすい社会環境の整備」に向け問題意識を共有しました。加えて、ハチ公前広場にて特設ステージを組み「パープルタワー」のロゴ入りバックボードを背景に、本事業に賛同する企業・団体が育児に関する取り組みや公報PRを行うことで、育児に対する企業イメージの向上を図るとともに、積極的に育児を行う父親の象徴である「パープルタワー」の普及に努めました。

委員会活動報告



豊島区委員会では、2017年度の大きなトピックスとして2つの大きな事業に取り組みました。まず、5月に「WE LOVE TOSHIMA」実行委員会が主催する「第40回わんぱく相撲豊島区大会」の運営協力をしました。例年通り南池袋小学校での開催でしたが、今年は外に土俵を設えるなど新たな試みにもチャレンジし、参加選手348名、保護者696名に参加して頂き、また多くの学生ボランティアにも協力頂き盛会のうちに終了することが出来ました。また、9月には中池袋公園にて当委員会が主催する事業として「国際交流2017～WE LOVE TOSHIMA～」を開催致しました。こちらは今年で2回目の開催となり、豊島区からの後援のほか、駅日キューパー共和国大使館など国際関連団体や、東京商工会議所豊島支部青年部など区内の諸団体からもご協力を頂きました。当日は2,000名を超える方々にご来場頂き「豊島区に関わる日本人と外国人の交流、相互理解を促進し国際色豊かな豊島区に対する地域愛をより一層育む事」に取り組みました。



2017年度の練馬区委員会では、「第41回わんぱく相撲練馬区大会」、「ねりまチャイルドミーティング」、「2017年衆議院議員総選挙公開討論会」を開催しました。「ねりまチャイルドミーティング」へ自分の可能性を探しに行こう!~では、子供たちが、家庭、学校以外の場所で様々な出会いをしてもらいたい、様々な文化を知るきっかけになれば、また子供たちが夢を見つけるきっかけになってほしいという思いから、練馬区内にある習い事教室を中心に出展して頂き、光が丘IMA光の広場にて開催しました。当日は、16団体の出展があり、お子様連れのご家族を中心とした約3,600名の方々にご来場頂き、様々な習い事教室、文化、職業に触れて頂く事が出来ました。ステージでは、9つの団体が日頃の練習の成果を披露してくれました。2017年度も多くの経済団体・協力団体の皆様に支えられ、事業を成功させることができました。練馬区委員会一同心より御礼申し上げます。今後ともご協力くださいますよう何卒よろしくお願い致します。



2017年度、大田区委員会では国際交流をテーマに産官学民を巻き込んだ活動をして参りました。その背景には大田区には東京の玄関口と言われる羽田空港があるからです。また、2020年には東京オリンピックパラリンピックが開催する事から国際化に向けた活動が行政を始めとする様々な団体に機運が高まっております。そして、大田区には日本工学院専門学校と言う日本最大の専門学校があり、当専門学校は留学生入りにも積極的に動きだしております。一方、大田区はアメリカSelam市と姉妹都市関係にあり、北京の朝陽区及びに大連市とは友好協力関係都市として締結しております。この様な外交が盛んにされている事を背景にJCとして区民や各地域の団体、企業へと国際交流や多文化共生を推進した活動を行い、「OTAアワード」と言った表彰制度を区に対して提案し、外国人が大田区の地域において活動しやすくなる様に、また区民が外国人と共に生する意義を伝える為の運動を行いました。これらのイベントに参加した企業の経営者から行政の方々からは喜びの声が聞けた事はJCにとって大きな成果となりました。



2017年度の世田谷区委員会は「心を動かし未来を創る～地域を想い地域に学ぶ～」をスローガンに活動して参りました。現在、比較的入会して日の浅いメンバーが多くなっており、委員会を通じ地域と関わる学びを得る事で、成長したメンバーの一人一人が次年度以降に学びの場を提供する側として活躍してもらいたいという想いを込めて一年間活動して参りました。2013年度からスタートをした地区事業「夢をかなえる力」は、児童養護施設の退所者が夢を持って社会へ巣立っていく様に活動してきましたが、今年で5年目を迎える地域から求められる事業となりました。4年目に発足した児童養護施設地域支援団体に活動を移管し5年目以降も継続出来る新たなスタートの準備も出来ました。また、今年41回目のわんぱく相撲をはじめ、せたがやふるさと区民まつりやアドベンチャーin多摩川、せたがや産業フェスタ等、合計年間7本の名称使用事業を通じて地域の様々な団体と交流が出来ました。今後もより一層地域から必要とされる団体として世田谷区委員会一丸となって邁進して参ります。



2016年最優秀拡大率賞を頂いた中野区委員会は、半数以上が入会1年内の経験の浅いメンバーでの委員会運営となりましたが、わんぱく相撲中野区大会は前年に引き続き3,000名規模で開催。公開討論会を中野駅前で開催する初めての試みも行い、新事業となる「中野まちづくりキャラバン」も開始するなど、様々な挑戦をした一年となりました。特に中野まちづくりキャラバンでは、地域活動に参加したい方への必要な情報や、参加のきっかけを提供すべく活動し、これまで以上に商店街や地域イベントに深い関わりを持つこととなりました。これらの活動を通じ、中野区委員会では新たに5名の入会者を迎え、年初の目標であった20人委員会(休会1名含む)を達成しました。2017年は、原点回帰、JCブランドの再構築をモットーに活動して参りましたが、地域のリーダーを育成する団体として、JCの原点とも言えるブランド力を、その存在感を出せたのではないかと考えております。これからも益々発展していく中野区委員会を2018年もどうぞよろしくお願い申しあげます。



2017年、杉並区委員会では杉並区から「美德溢れる国際都市「東京」の実現」を目指し、外国人を主なターゲットとした地域防災力の向上を目的とした新規地区事業として「Safe City Suginami Project」を立ち上げました。昨年よりわんぱく相撲杉並区大会などに積極的にご参加頂いているエベレスト・インターナショナルスクール、ジャパンと共に、ネパールの方々を中心として基調講演やグループワークを行い、外国人が災害弱者とならないためにはどうすれば良いかを考えました。第41回わんぱく相撲杉並区大会では会場を屋内で開催できる杉並区立阿佐ヶ谷中学校に移し、学校対抗戦を復活させました。残念ながら2校のみの参加でしたが、チームとの連帯感溢れる、大変白熱した取り組みが行われました。また、杉並区を代表するイベントである「すぎなみ舞祭」や「すぎなみフェスタ」にもご協力させて頂きました。杉並区委員会では今後も多くの方々、団体との交流を大切にし、明るい豊かな杉並区の実現に向け、青年会議所運動を展開して参ります。



2017年度は、波多野理事長から掲げられた「和の心を世界へ ~美德溢れる国際都市「東京」の実現~」を主軸に据え、板橋区委員会では「人との和(輪)」という言葉を大事に進め参りました。わんぱく相撲大会や事業等を通して、来年・再来年へつながる新しい出会いの和(輪)を作り上げることが出来たのではないかと思います。こうした中、2017年度は「Pay it forward ~板橋から広げる恩送りのこころ~」と題した新事業を8月1日から約1カ月間行いました。善意で人を繋いでいく「恩送り」を板橋から広め、思いやりと助け合いが溢れる社会を作りたいという思いから本事業は始まりました。聞きなれない「恩送り」という言葉を多くの方に理解してもらう為、様々な企画を通じて啓蒙活動を行い、1カ月間で1,060名もの方に「恩送りの約束」をして頂ける事に成功しました。その他わんぱく相撲大会を含め5つの名称使用事業を行い、多くの関係団体の皆様・学生ボランティアの皆様・他地区メンバーも皆様にご協力を頂きました。2018年度もメンバー一丸となり、熱い気持ちを忘れず頑張って参ります!



「本義への挑戦」を2017年度台東区委員会の行動指針として示しました。改めてJCマンとしての最も根本となる価値観、つまり「本義」とは「奉仕・修練・友情」の三原則を一人一人が体現出来ることと考えました。2017年度は委員会メンバーと共に本義に沿って行動していくて参りました。2017年度の運動内容は例年に無く、新たな委員会設営、多くの事業を展開して参りました。まずは台東区をもっと知る必要があると思い、毎月の委員会開催地を台東区で行いました。事業は、4月のわんぱく相撲、6月の東京都議会議員選挙公開討論会、8月の桜橋・わんぱくトライアスロン、9月のしたまち演劇祭、10月の衆議院議員総選挙公開討論会という事業を目的に、事前交流イベントとスピーチ戦を実施し、多くの方に英語に触れる機会を提供致しました。④2017年度初開催のしながわ魅力再発見プロジェクトは「商店街企業とベンチャー企業の融和による新視点のビジネスモデルの構築」に向けて品川区民を行動させることを目的に、商店街企業とベンチャー企業の合同チームによるプレゼン大会を行い、区内事業者に新しいビジネス視点を提供しました。2017年度私どもの運動にご理解ご協力賜りました皆様に改めまして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。来年の品川区委員会も何卒よろしくお願ひ致します。



2017年度元旦、9名でスタートした目黒区委員会。今年度は拡大と新規事業の成功に向けて、メンバー一丸となって運動を進めて参りました。拡大に関しては他地区や理事、OBの先輩方等から多くのオブザーバーのご紹介を頂き、皆で力を合わせて拡大を進めて参りましたが、結果1名の入会にとどまり、目標を達成することが出来ませんでした。しかしながら、今年種を蒔いたものが年明けには入会予定となっていることから、努力は決して無駄では無かったと、次年度の拡大目標達成に向けて新たな決意を固めることが出来ました。そしてもう1つ、当委員会が今年の目標として掲げていたのが新規事業である「Meguro English speech contest ~Challenge yourself~」の成功です。これまで名称事業を通じて行政や地域の団体との信頼関係を築いて参りましたが、本事業では今まで関係が無かった大使館や国際交流関係団体との新たな関係を構築するだけでなく、区内の中学生が将来国際社会で活躍できる人材となれるよう、大使館やインドネシア学校の協力を得て目黒区らしさ溢れる事業を行うことが出来ました。Thank you for your cooperation!



2017年度「学び」をスローガンに一年間活動してきた我々は、地域防災をテーマとした勉強会・そして、地区事業と東京都議会議員選挙・衆議院議員総選挙の公開討論会を開催しました。まず、地区事業「あそぼう！まなぼう！あらかわぼうさい！」では荒川区社会福祉協議会との共催により、これまでに関わることのなかった多くの地域団体・地域で活動するボランティアの方々と協働し運動を行なうことが出来ました。この繋がりは地区にとって新たなエンジンとなり、将来の地域を支える関係となることでしょう。わんぱく相撲荒川区大会では、運営の間隔化を行い新たな参画者を想定した運営、未就学児に対象を広げた未来に向けた試みを効果的に行なうことが出来ました。そして、東京都議会議員選挙・衆議院議員総選挙の公開討論会においては、公開型・ネット型双方で行なうことで区内に効果的に候補者の政策を伝えられる手段を得るに至り、多くの学びを得て、一年の運動を終えることが出来ました。この一年、我々の活動をお支えいただいた先輩諸兄、地域関係団体の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

委員会活動報告



2017年度千代田区委員会では地域活動として1月の区長選挙公開討論会から始まり、社会福祉協議会主催の福祉祭りに参加して参りました。公開討論会は区長選挙だけではなく、東京都議会議員選挙・衆議院議員選挙もありました。その公開討論会の中では標語を大学生と共に製作し、その標語にキライイレーの上田三根子先生からイラストを書いて頂きました。その標語イラストを各地区での公開討論会でも使用し頂き、公開討論会から新たな運動を展開することが出来ました。事業においては7月例会を主管させて頂き、500名弱の動員にも成功しました。また半数近くが一般参加者となり、社会にインパクトのある事業を展開出来たと考えています。また7月例会という大きな目標の中、11名の新たなメンバーを獲得することができました。一つの目標に一丸となれ、委員会の雰囲気も明るく、それが一つの拡大成功の要因になったのではないかと考えています。全てにおいて充実した一年だった感じています。また来年度もこの勢いを引き継ぎ、更なる飛躍の年になると確信しています。



北区委員会では、昨年度の新規事業を引き継ぎ、子供たちに夢を与えるというテーマに対して、より具体性を持たせた事業を開催していくことを試みました。そこで、世代間交流の場を通じて子供たちが具体的な将来像を描くことが出来るための事業、「北区つながり創造プロジェクト～一世代でつくる未来～」を行いました。将来の進路について具体的に考えていく世代である中高生をターゲットとし、地域の人たちの設えによる職業体験を通して、将来の自分について発見や気付きを与えることが出来ました。また、地域事業である「わんぱく相撲北区大会」「北区花火大会」「飛鳥山新能」に参加し協力していくことで、我々の活動を広くPRしてきました。さらには、東京都議会議員選挙の公開討論会も行き、若手世代を中心に選挙への関心を高め、各政党の主張を理解してもらえるように努めました。来年はこうした様々な活動を踏まえ、夢を持つことや将来像を描くことの前に、自己肯定感を感じることが出来ない家庭環境の子供たちをターゲットとして事業を開催して参りたいと思っております。



2017年度江戸川区委員会では、「第41回わんぱく相撲江戸川区大会」、「江戸川区共育のすゝめ」、「第12回江戸川区国際フットサル大会」と年間を通して活動を行って参りました。わんぱく相撲江戸川区大会では、2017年度江戸川区内の全73校の小学校にメンバーでチラをお持ちして直接参加申し込みを致しました。結果、昨年を上回る700名を超える子供たちに参加して頂く大会となりました。2017年度事業の「江戸川区共育のすゝめ」では、地域で行う共育環境整備の推進を目的に、講師に江戸川区長と北野大氏をお迎えてフォーラムを開催致しました。区内事業所の中学生の職場体験の受け入れも行って頂き、まだまだ実例を増やしていく段階ではありますが、今後、多くの区内事業所に受け入れを行って頂ける共育環境整備の推進を行って参ります。第12回江戸川区国際フットサル大会では当日悪天候の中、申し込み全チームの参加を頂き190名で盛況に大会を開催する事が出来ました。来年以降はより外国人参加チームを募り、スポーツを通じて国際交流を図れる魅力ある大会にしていければと思います。2017年度江戸川区委員会では、通年で拡大に力を注いで参りました。拡大数でも年初に掲げておりました5名の拡大目標を大きく超える事が出来、来年以降の委員会拡充に向かって前進できる1年となりました。



2017年度文京区委員会は、先輩方が築いてきた伝統を受け継ぎつつ、新たな革新をみ出す事業を展開しました。まずは4月のわんぱく相撲文京区大会。参加児童数は一昨年から1.5倍に増加し、盛大に執り行うことが出来ました。また、昨年まで東京青年会議所の事業として開催してきたリーダーシップ事業、高校生を対象とした1日ワークショップを今年も実施し、リーダーシップについて学んで頂きました。文京区内の中学生に対して社会人が出前授業を行い、仕事について学んでもらうキャリア教育「寺子屋」も、例年通り実施致しました。さらに今年は新事業「こころのバリアフリー推進プロジェクト」をスタートしました。2020年に向けて、パラリンピック種目のボッチャ体験、車椅子体験や目の見えない方によるコンサートを実施するなど、障がいのある人との交流する場を作りました。会員拡大にも注力し、文京区委員会のメンバーは1.5倍に増加しました。女性会員比率も向上し、ダイバーシティの拡大に成功しました。来年もこの勢いを引き継ぎ、開かれた文京区委員会を築いて参ります。



2017年度は、「わんぱく相撲足立区大会(5月)」「東京都議会議員選挙関連事業座談会(6月)」都民意識調査を基に構築した新規事業「あだち超学園祭(10月)」そして衆議院議員総選挙に伴う「ネット型公開討論会(10月)」と、大変多くの事業を開催させて頂きました。わんぱく相撲では、人力車による優勝パレード等初めての企画にもチャレンジをさせて頂き、西新井大師光明殿にて多くのわんぱく力士、そして多くの関係者の皆様と共に大会とすることが出来ました。あだち超学園祭では大学生を中心に、行政や商店街、地域の関係団体の方など、今までにはなかった新しい関係性を構築しながら事業を開催することが出来ました。2つの政治系事業では、お洒落なカフェで座谈会を開催するなど、若者が参加しやすい工夫をすることで、若者を中心に主権者意識を育むことができたと確信しております。このように多くの皆様に支えられ、ご協力いただきながら一年間活動をさせて頂きました。ご協力頂きました全ての皆様に心より感謝申し上げます。



総合政策委員会では、「多様な個性を組織の強みに変えるダイバーシティマネジメントの推進」をテーマに活動して参りました。2月例会での動機づけ、実践方法を知る場として3回の勉強会の開催、年間を通じた調査研究の集大成として11月例会を行いました。私たちの調査研究の結果、組織全体のパフォーマンスを向上させるには、個人・組織の意識や行動、あらゆるレベルでのイノベーションに加え、一人ひとりの潜在的で多様な能力を掘り起こし、生産性を向上させていく必要があることが明らかになりました。その解決策として、①多様性社会において柔軟に対応できるリーダーや自立した個人の創出、②利益拡大と個人の幸福度を尊重した経営の実現、③隣人を理解し、世代や立場を超えた地域コミュニティの確立が必要であると考えております。これら個人・組織・地域の3つの柱でダイバーシティを推進することで社会に好循環を起こし、地域経済の活性化から社会全体に波及効果を生み出すものと考えます。2017年度中に提言書を作成し皆様に配布しますので、ぜひご覧下さい!



ダイバーシティ推進室に属する対外連携推進会議は、組織のダイバーシティという観点から東京JC以外の組織との連携を主眼として一年間の活動を行いました。主な活動としては関連団体への挨拶や訪問、各種対談などへの同行でした。またFacebookグループを用いて「Tokyo Ambassadors(東京アンバサダーズ)」というコミュニティを作り、弱い繋がりで繋がるSNSならではの特性を活かしたツールを築きました。今後も継続的な運用と発信を行うことで、東京JCの運動を効果的に効率的に発信することのできるツールになると確信しています。地道な活動の多かった会議体ですが、オンとオフの切替えをしっかりと行い、一年間を通して常に明るい組織であったと感じています。生涯の友を築くことの出来たこのチームに、そして関わって下さった全ての皆様に感謝を申し上げます。



当委員会では、JCのブランドを“人、運動、歴史”と定義し、年間の活動を行って参りました。2017年度のブランディング活動として、アウターコミュニケーションにおいては、理事長スローガン、チームカラーを基軸に、対外的なJCブランドのイメージの統一化を図りました。Webサイトにおいては、各地区的投稿促進、新規入会者向けのページ制作等を実施し、全体のページビュー数は対昨年度比66%増となり、入会問い合わせページにおいては261%増となりました。インナーコミュニケーションにおいては、新たな試みとして、東京JCの公式アプリである「JCadapt」をリリースし、情報の一元化、およびメンバー同士のコミュニケーションの円滑化を目指しました。また、東京青年会議所のプランティングを向上させる試みとしては、ブランディングの手法論やセルフブランディングの座学、またその実践に至るまで計4回のブランディングの勉強会を実施しました。そして、当委員会の担当である9月例会では、国際都市東京の魅力を国内外に発信する事を目的として、六本木ヒルズにて開催致しました。



今年の国際政策委員会は、4月例会にて外国人を100名呼び、国際交流を行いました。6月はウランバートルにてAPICC、ASPACEが開催され、アジア各国LOMと交流しました。7月下旬にはモンゴルのわんぱく力士を迎えて、東京案内を行っており、モンゴルの子供、青年と交流しました。8月18日-21日はマニラ青年会議所メンバーとスマーキーマウンテン(SM)の子供たちが来日しました。過去5年間はマニラで開催されたが、2017年度はスマーキーマウンテン(SM)で選出された約15名の子供たちが日本に来て、野球教室、親善試合、東京ドームにてプロ野球の練習見学、試合観戦を行いました。東京・マニラ側それぞれの文化や精神性を学ぶ良き機会となりました。9月19日-25日は中国全青連の方と中国の大学・院生13名を招き、日本の水道技術に関する企業へ訪問し、共に水道技術に関して学びました。1週間を通じ、日本文化・観光資源を示し中国の青年と親交を深めました。11月上旬には世界会議がアムステルダムにて開催され世界のLOMのメンバーに日本文化を発信・交流を行ないました。11月下旬には廈門へ訪問し、中国企業の会社や工場を訪問し、企業家と交流しました。



2017年の大きな抱いとして、眞の国際人の育成を目指す中で日本人のアイデンティティの確立とともに、和の心を世界へ広げるべく運動して参りました。3月例会では日本文化から和の心を学ぶことの意味や必要性を理解し、個人の意識の中に民間外交の礎を築きました。年間を通して、国際政策委員会が担うASPACEや国際会議に代表される民間外交の機会提供に協力して参りました。運動のまとめとして、10月例会では、世界の都市間競争の下で東京の目指すべき姿を指し示し、世界中に和の心を広げていくことの重要性を伝え、私達一人一人がこれから何を行わなければならぬか意識と行動を変える例会を主管いたしました。本年で取り上げた日本人の精神性を持って世界との課題を共有解決するためにもSDGs(持続可能な開発目標)を2018年度国際政策室の運動で更に推進して参ります。



2017年度、総務委員会は東京青年会議所の運営の肝であるという「誇り」、総務委員会こそがすべてのメンバーの見本となるべく存在で去るという「責任」を常に心に刻むべく「誇りと責任」を委員会スローガンに掲げ、基本資料・定款諸規則の検討から始まり、各種大会の登録や東京JCナイトの設営、理事会当初会議の準備及び運営、入会審査、コンプライアンス関連の書類の審査などを実行して参りました。決して表に出ることなく、地味で100%出来て当たり前という厳しい条件の中、入会歴の浅いメンバーを中心に各地域から集った個性豊かなメンバーが活動の本質を理解し、切磋琢磨一年間活動を行ってきた結果、最高の総務チームを築くことが出来ました。総務委員会に快くスタッフを出してくれた地区委員会の皆様、設営にご理解を戴いてご協力してくれた皆様、我々の活動を陰で支えてくれているご家族や会社の皆様、そして一年間に共に戦ってきた愛すべきメンバーの皆様、本当にありがとうございました。すべての皆様に心より御礼申し上げます。

委員会活動報告



涉外委員会は、美德溢れる国際都市「東京」を実現させるべく、LOM内外において「東京青年会議所とはどうあるべきか」を常に考え活動して参りました。他LOMと東京青年会議所を繋ぐ役割を担うこと。そして東京青年会議所役員のスケジュール管理や各種諸会議において行動を共にすることで、円滑な運営に貢献出来たと考えております。涉外とは、読んで字の如く「外を涉(わた)る」と書きます。2017年度は国内涉外業務に加え、ASAPACや世界会議を中心とした海外での涉外業務も担当させて頂きました。青年会議所の運動は1年間を通してのストーリーがあり、全てに参加することで本質をより深く知ることが出来ます。我々涉外委員会は、東京青年会議所役員と共にほぼすべての諸会議の現場に出向き、核心にふれることで、メンバー全員が一回りも二回りも成長を感じることが出来ました。最後に、皆様には涉外委員会の活動にご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。1年間本当にありがとうございました。



財務運営会議は協賛企業を探し、協賛金を獲得するという活動をして参りました。これは安定した財務基盤確立に向けての活動となります。企業様に東京青年会議所の協賛企業となっていました、協賛金を公益活動促進のために使用させていただきました。また、例会等において協賛企業様のご紹介をさせていただき、協賛企業様と東京青年会議所の相互メリットを模索して参りました。我々東京青年会議所は「明るい豊かな社会」を実現するため運動しております。それは誰もが考える理想社会を構築することであり、困難な運動であることは間違ひありません。協賛をお考えの企業様、この困難な運動にチャレンジしている我々東京青年会議所に是非とも暖かいご支援を賜りたいと思います。我々財務運営会議も協賛企業様と一緒にござるだけではなく、2017年度の協賛企業様との繋がりを2018年度へと繋げ、2018年度ではそれを受けた上で新しい繋がりを求めて活動して行く事で東京青年会議所の認知度は上がり、協賛企業様のメリット享受、東京青年会議所の安定した財務基盤の確立を致します。引き続きご支援の程、宜しくお願ひ致します。

日本JC諸大会報告

■ 京都会議



2017年1月19日～22日に京都会議が開催されました。京都会議は日本青年会議所の会頭所信があり、青年会議所の一年の運動のスタートとなります。2017年度・第66代会頭青木照護君の基本理念は自己成長を求める「日本道」を歩もう「日本を変えるのはオレたちだ！！」です。京都会議では日本道をテーマに、各種フォーラム、セミナーが開催されました。

■ サマーコンファレンス



2017年7月22日～23日の日程で「日本を変えるのはオレたちだ！！」をテーマに掲げ、横浜の地にて、サマーコンファレンス2017を開催致しました。本年は教育再生・経済再生・民間外交・地域再興の4テーマで20のフォーラム、セミナーを実施し、すぐにLOMで実施できるようパッケージ化された政策を聞くことができました。

■ 全国大会



2017年9月28日～10月1日の日程で「運命共同体」をテーマに掲げ、第66回全国大会埼玉中央大会が開催されました。日本青年会議所の1年間の運動の集大成として、各種フォーラム、セミナーを開催致しました。

JCI・海外渡航報告

APICC・ASPAC

2017年6月にAPICC(Asia Pacific International Cities Conference)・ASPAC(Asia-Pacific Conference)がモンゴルのウランバートルにて開催されました。ASPACの前日に開催国の首都LOMが主催するAPICCという会議があります。APICCではアジアの首都LOM約10ヶ国が集まり、それぞれの国の発展の歴史をプレゼンテーションし、意見交換を行いました。ASPACでは、各種ファンクションがあり、多くのメンバーが参加をして勉強をしました。ASPACのジャパンナイトで東京青年会議所は、国際政策委員会が中心となり運営を行いました。日本のソフトパワーであるゲームの任天堂スイッチでマリオカートを行いました。日本人のみならず外国人も多くゲームを行い大盛り上がりがありました。日本の文化を海外に強く発信できました。



世界会議

2017年11月にオランダのアムステルダムにて世界会議(世界中のJCが集まる会議)が行われました。世界会議では次年度のJCIメンバーの紹介など各種ファンクションがありました。アワードでは、国際政策委員会が8月に行ったマニラJCとの共同事業であるスマーキーマウンテンベースボールプロジェクト(SMBP)が最優秀組織間協働プロジェクトで最優秀事業として表彰されました。SMBPは、フィリピンの首都マニラにアジア最大級のスラム地域スマーキーマウンテンで、生活を送っている子供たちに対して、マニラJCと共に野球を通じて社会進出への夢や希望を届ける事業で2012年から行っています。過去マニラで行っておりましたが、2017年は日本で行い、名球会に所属する柴田勲選手(名球会所属)による野球教室などを行いました。世界会議のジャパンナイトでは、東京青年会議所は、福笑いの顔を外国人のメンバーに作ってもらい楽しんでもらいました。



The Tondo district of Manila, Philippines is infamous for its "Smoky Mountain" slums. To break the cycle of poverty in the area, the JCI Tokyo organized with JCI Philippines on the "Smoky Mountain Project 2017." The project selected 12 children to visit Tokyo for four days of development through baseball.

Since the Japanese baseball industry is one of the

biggest in Asia, such experiences for these children provide them with opportunities of obtaining scholarships and increase their competitive edge in the future.



〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F
公益社団法人 東京青年会議所 事務局 TEL.03-5276-6161 FAX.03-5276-6160

<http://www.tokyo-jc.or.jp>